


令和5年度 「地域連携型学校防災体制等構築推進事業」における視察調査
実施報告書

宮城県立金成支援学校

視察先	千葉県立長生特別支援学校
視察日程	令和5年8月2日(水)
視察内容	<p>長生特別支援学校は、海から400m、海拔5m、学校周辺には避難に適した場所がないため、開校以来、津波からの避難を課題としていた。平成24年度・平成25年度に県教育委員会指定の「命の大切さを考える防災教育公開事業」に取り組んだ。東日本大震災の教訓に学び、避難計画を抜本的に改めた。</p> <p>1 防災計画の見直しと防災教育の充実</p> <p>(1) 避難場所と避難方法の見直し</p> <p>(平成23年度)</p> <ul style="list-style-type: none">・東日本大震災直後から本校の避難場所として近隣の船橋市立一宮少年自然の家と協定を結ぶ。大網白里特別支援学校との分校前であり、全児童生徒数が現在の倍のため、全員で避難するには課題となった。 <p>(平成24年度)</p> <ul style="list-style-type: none">・非常用外階段を設置し、海拔11.2mの屋上への避難ができるようにした。 <p>(平成25年度以降)</p> <ul style="list-style-type: none">・車両(スクールバスや教職員の自家用車に分乗)による校外避難と屋上への避難の二本立てで訓練を行う。 <div data-bbox="512 1458 1399 1951"></div> <p data-bbox="601 1933 1112 2009">「船橋市立一宮少年自然の家」</p>



「屋上避難場所」

「非常用外階段」

(2) 避難訓練

(令和3年度)

- ・車両による校外避難と屋上への避難の2本立てで訓練を重ねていたが、より現実的な避難方法を模索して改善を図った。

(令和4年度)

- ・徒歩による校外への分散避難による避難訓練を各学部で実施。(避難場所を1か所にせず、分散する。避難後に1か所に集まらなくてよいかという課題が出た。)
- ・ミニ避難訓練も含め、月1度の程度で避難訓練を実施。

(3) 継続される防災教育のマンネリ化を打破

(平成30年度)

- ・身近な題材で防災に迫ろうとした「ラップ♪防災」誕生。簡単な歌詞で繰り返し歌いながら学習できることを目的とし、繰り返し歌うことで、学習内容が定着し、学びに向かう姿勢が表れてきた。
- ・二人の児童がユニットを組み、「なちゆりー」として発信し、「YouTube長生特別支援学校チャンネル」を開設した。

2 地域との連携

(1) 学校を核とした県内1000か所ミニ集会

- ・令和2年度、「地域で取り組む防災教育」をテーマに、地域の消防、防災行政担当、福祉関係者、保護者とでパネルディスカッションを実施した。
- ・避難支援や合同避難訓練が話題に上がり、移転についての話題は何度も上がった。
- ・地域と連携して防災教育を推進していくとともに、地域のセンター校としての防災教育の役割も模索していく。

(2) コミュニティスクール地域防災部会

- ・年4回で計画されている。
- ・地域、小学校、中学校も交えて。

(3)ぼうさい甲子園において受賞

- ・平成30年度、令和元年度「津波ぼうさい賞」
- ・令和2年度「優秀賞」



3 「ラップ♪防災」

(1)身近な題材

- ・「天気と温度」、「防災さんぽ」、「避難所で非常食」、「感染症に気をつけろ」など、様々な内容をラップに乗せて、繰り返し歌うことにより、学習内容が定着。自主的な取り組みと意識付けが図られた。
- ・防災教育の事前事後学習で活用。



「なちゅりー」
『ラップ♪防災』

4 その他

(1)防災リュック

- ・各個人の防災リュックを各家庭で準備。
- ・防災リュックの中身を各家庭で準備。(個別の非常食等)

(2)連絡メール

- ・「マチコミメール」の活用。

本校の防災教育に
役立つ具体案

- ・児童生徒の自主的な取組。
- ・事前事後学習の工夫。
- ・防災リュック。
- ・適切な避難場所と実態に応じた避難方法。